

■令和5年度第2回和歌山県スポーツ推進審議会 議事録

日 時：令和6年3月26日（火）10：30～12：00

場 所：ホテルアバローム紀の国 3階 孔雀の間

- ◆出席者：山下 郁夫会長（県体育協会副会長）
岡 桂子（NPO 法人和歌山マスターズ陸上競技連盟副会長）
阪本 憲二（障害者スポーツ代表）
島本 久仁（スポーツ選手・指導者代表）
筋師 光博（県スポーツ推進委員協議会 会長）
田村 光穂（県スポーツ振興財団常務理事）
中西 朋子（スポーツ選手・指導者代表）
成瀬 裕之（県PTA 連合会副会長）
西上 嘉人（県高等学校体育連盟会長）
坂東 あつみ（女性スポーツ代表）
南 由佳（学識経験者）
村瀬 浩二（学識経験者）
吉川 豊（県中学校体育連盟会長）

- ◆事務局：宮崎教育長
栗生生涯学習局長
スポーツ課 田伏課長
上野副課長
坂口副課長
杉田総務管理班長
森スポーツ企画班長
橋爪生涯スポーツ班長
山本競技力向上推進班長
義務教育課 武田指導主事
障害福祉課 橋本副課長

◆議事

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員紹介

4 議題

(1) 令和6年度におけるスポーツ団体に対する補助（案）について

資料1-1、1-2により事務局が説明

〔質疑応答等〕

（委員）

資料1-2の7番、マスターズスポーツ推進。この件についてはワールドマスターズゲームズ関連だと思うが、県の実行委員会より予算が付けられている。ワールドマスターズゲー

ムズは世界を巻き込んだ大会になっているので、そのように予算が付いていると思うが、県内のマスターズスポーツの推進について、少額でも予算が付けば大変助かるのでお願いしたい。

(事務局)

ワールドマスターズゲームズに向けての経費については、繰り越した予算でずっと粛々と2027年まで続けている。その中でマスターズスポーツの振興ということですのですべての競技ではないが、まずは和歌山で開催されるワールドマスターズゲームズの5競技を振興するというので、各種大会等に補助を実施している。

(委員)

運動部活動推進について予算が増えているが、どのような方針で今後進むのか。

(事務局)

運動部活動推進事業の増だが、国の委託事業として地域移行の実証事業が行われている。その予算の増ということで、今年度はかつらぎ町がこの実証事業にチャレンジしていたが、来年度チャレンジする市町が増えるということで予算が増額した。

(委員)

規模としてはそれほど大きな増額ではないように見えるが。

(事務局)

今後この国の実証事業は国の各都道府県の予算の査定というものもあり、今後の実証事業の取り組みの状況によって国の査定があるので今後、増やしていけるようにしっかりと進んで取り組んでいきたいと考えている。

(事務局)

補足として後程説明するが、2月に方針を策定している。それを受けて、各市町村で地域連携や地域移行の取り組みをどんどんやってくださいという話でやっているが、なかなか増えてきてないというのが実情ではある。今後、取り組みを活発化していく上で、予算は増えてくると思っている。

(委員)

先ほど、全体の増減について説明があったが、例えば工事費の減によって4億とか、4,000万とか大きいところでは減額といったところで話があったと思うが、すべての事業を見ると、予算が前年比でマイナスになっている。これは県全体の予算の中のスポーツ事業なので様々なところとの関連あると思うが、今まで十分だったかといえばそうでない部分もある中で、予算が減ることについて各事業の進め方はどのように考えているのか。

(事務局)

予算を減らしたくなかったが、ご存じのように、財政危機警報というものが出されており、スポーツの部分も削減の対象の枠という形で位置付けられた。スポーツ課で例えば廃止できる事業があればそれを廃止して、今回上がっている事業の予算確保をしたかったところもあるが、例えばジュニア駅伝、リレーマラソン等それぞれ1つ1つが大事な事業になってくるので、一旦何かを廃止してその削減分を確保するということがすごく難しかったというところ。それで、ある程度去年や一昨年の実績を参考に削減して、予算の枠に収めている。各競技団体にもこの間説明し、確かに予算は少し減る形にはなるが、効率的な活用の仕方っていうのをこれから皆さんとやっていきましょう、何とか効率的に活用していただき

たいということで説明をしている。

(委員)

知事部局の方へ移行するというので、競技力強化のところ、普及も含め一体的に力を入れていくのであれば、予算の確保は引き続きお願いしたい。

(2) 令和6年度における本県スポーツ振興の取組について

・令和6年度和歌山県生涯スポーツ振興基本方針(案)について

資料2-1により事務局が説明

・令和6年度和歌山県競技力向上対策基本方針(案)について

資料2-2により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

さあスポーツだ!プロジェクトのマスターズスポーツ体験会の開催とあるが、これまでも実施されていた事業か。今年も開かれるのであれば、いつ予定されているか。

(事務局)

ワールドマスターズゲームズの開催が決定した当時から和歌山での開催競技を主に実施というところもあったが、継続的にマスターズ競技の体験会というのを進めている。例年2回程度実施しており、現状の予定は11月24日に開催されるリレーマラソンの際に、屋外競技系のマスターズ競技体験会を併催したいと思っている。それに加えて屋内競技を2月から3月に体験会を開催したいと思っている。

今年度(令和5年度)については、リレーマラソンの際は参加者等の数計はしていないが、3月に開催した体験会については、350名程度参加いただいた。

(委員)

マスターズ陸上の選手権、和歌山マスターズの選手権等があるので、そちらの方にも体験会を兼ねて参加できる等の取り組みについて今後考えはあるか。

(事務局)

体験会やブースの出展等、積極的に支援をしたいと思っている。

(委員)

和歌山県生涯スポーツ振興基本方針案の中、総合型地域スポーツクラブ「育成事業の推進」となっている。当時から「育成」とされていたが、資料の1つ上のスポーツ少年団事業は「推進」となっている。総合型クラブはどのタイミングで育成重点ではなく、事業の「推進」となっていくのか。

(事務局)

(4)の広域スポーツセンター事業にもあるように県内各4ブロックで委託事業をしている。それで各クラブ同士の横の繋がり、実践交流会などを開いて情報交流や行っている実績などを共有しながら質の向上というところで、「育成事業の推進」というところを書いている。

(委員)

総合型地域スポーツクラブ事業のところは、「育成」は外してはいけないものなのか。

(事務局)

現在、県内に49の総合型クラブが存在しており、11の準備中の団体ある。その準備中の団体が総合型クラブとして生まれていくためにも育成の方も進めていく必要があると思っているので、「育成事業の推進」と書かせていただいた。

(委員)

スポーツ少年団についてもできたりなくなったりしていると思う。総合型クラブも今後できたりなくなったりしていく中で育成事業になると、総合型クラブ、県内にすでに存在している総合型クラブからすると関係ないのかなという形になる。

また、今のスポーツ振興くじの事業も、市町村単位で申請するような形に変わってきていると思う。この育成に関しては、県より市町村の方が適切ではないかと考えている。

(事務局)

助成金の国からの降り方も変更になってきていることを承知している。今後、市町村と連携して進めていきたい。

(3) 令和5年度における本県スポーツの成果と課題について

資料3により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

子供の体力・運動能力の向上について、仕事柄学校体育を見る機会がある。この数字で出てくる体力よりも、もっと深刻な低下がこのコロナ禍で起きていると思っている。特にボールを使ったときに、ボールがつけない。手がボールに当たらない。要は、目と手のコーディネーション能力、この数字に出ない距離感や調整力がかなり低下している。おそらく国中で取り組まなきゃいけない課題だと思う。このコロナ禍で本当にボールを使った運動や鬼ごっこ等の外で遊ぶような基本的な体力が養われてこなかった。特に小学校の低学年にはつきり見えると思う。何か方策はあるか。

(事務局)

新体力テストで立ち幅跳びという立った状態から幅跳びをするものがある。両腕を振りかぶって跳ぶという推進力を作ったりするが、なかなか膝の動きと両腕の振りが連動できないといった苦手な子供が増えている。体育の領域の中で、体づくり運動っていう領域があり、体の動かし方、仲間とともに動きを調整していくという領域がある。器械運動や、球技、水泳、陸上という領域もあるが、体づくり運動で仲間とともに運動の楽しさや喜び、運動好きな児童生徒の育成というところがうたわれているのでその授業改善をさらに図っていかうと考えている。

(委員)

学校体育以外では何か方策はあるか。

(事務局)

全校で体力向上に取り組むという小学校がアンケート調査で増えてきている。朝の全校集会で定期的、継続的な体力づくりを行うことや体育科授業での以外の体育的活動の取り組みというところを各学校が体力アッププランとして作成している。体力アッププランについては、毎年新体力テストの結果が出てから我が校の児童生徒の課題、現状はどうかというところでプランを作成しているので、その着実な実践と検証をしていこうと思っている。

(委員)

トップレベルの競技スポーツを身近で観戦したり応援したりする機会の充実ということで、資料にはプロ野球とバレーボールということで書かれているが、他にも人気のサッカーやバスケットボール等の競技もあるかと思うが、そちらについては支援をしていないということか。

(事務局)

県内で行われるプロスポーツの公式戦等について、支援したいということで進めている。委員の発言のとおり、他のサッカー等の競技についてもプロスポーツ、実業団等も含めて公式戦等が和歌山県で開催される誘致も含め、積極的に進めていきたい。

(委員)

子供が生でスポーツを見る機会はすごく刺激になり、そのスポーツしたいというきっかけになると思うので引き続きお願いしたい。

(委員)

キャンプ誘致ということを書いているが、それぞれの市町にすばらしい施設がある。例えば2月から4月頃までは大学または社会人の野球、それぞれの町が1週間ずつ、キャンプをしている。例えば各市町が協力し、2月の第1週は野球を呼ぼうということで誘致をすると、練習試合ができる。県の方から各市町にお願いして、時期を合わせて誘致しないかと。色々な施設が特に紀南地方にはたくさんある。また検討をお願いしたい。

(事務局)

西牟婁振興局でスポーツ合宿の誘致推進協議会を立ち上げて、元々は西牟婁郡内だったが、そこに那智勝浦町、串本町等が参加し、先ほど会長が言われたように、横の繋がりでの練習をやるという形でメインは上富田町、田辺市、あと那智勝浦町や串本町のグラウンドでやっている。ただ、県下全体という形までの取り組みには至っていないので、すごく大事だと思っている。

5 報告事項

(1) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

資料4により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

以前、スポーツ庁のこのフィードバックシートを作る委員をやっており、この数字をあまり強調すべきでないと言っていた。数字だけではなく、やはり体育の愛好度というのをまず出すべきと思う。数字の一喜一憂で評価すべきではないと思うのでご検討いただきたい。

もう1点、中学校2年生女子の体育の愛好度が低かった。実はかなり深刻なところで、中学校で体力差が男女間で結構開き、運動の好き嫌いがはっきりしてくるという時期でそこで体力差の低い方の、女子の愛好度が下がるというのは、結構深刻な問題だと思う。何か分析はされているか。

(事務局)

分析において、ここで明言できるものが今準備できていないが、やはり体育の領域によっては器械運動、武道の領域、学習の内容でできる、できないがはっきりしてくる競技もある

と思う。特にマット運動や跳び箱運動、そういったところはやはり技能の習得だけではなく仲間との交流、表現活動も入れながら失敗を恐れなくてと言うのは簡単だが、実践する児童生徒はできないという姿を見られるという気持ちもあると思うので、授業の配慮のいる生徒、配慮の必要な児童生徒への接し方を各学校現場の先生に学んで欲しいと思っている。市町村教育委員会の事務担当者会でも内容を伝えていきたい。

(2) 全国高等学校総合体育大会及びヨット競技大会について

資料5により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

(3) 和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に等に関する方針について

資料6により事務局が説明

〔質疑応答等〕

(委員)

教育長の挨拶の中でスポーツ関連については知事部局に移るということで、学校の部活動については教育委員会になる。これは今後知事部局へ行くのか。この辺りがはっきりと分かりにくいところがある。

(事務局)

教育長の挨拶の中にもあったが、これまで色々組織の議論をしてきた。その中で、小学校、中学校、高校の保健体育や部活動、当然インターハイ関係については教育委員会でやる。

それ以外の部分については、知事部局の方になる。例えばワールドマスターズゲームズであれば教育委員会でするよりも、知事部局全体でやる方がいいだろうということで移す。地域連携地域移行というのがすごくちょうど真ん中ぐらいにはなってくるが、主が部活動なので、推進協議会の事務局は教育委員会、その受け皿となる総合型スポーツクラブ、スポーツ少年団は、知事部局に移るので、教育委員会と連携してこの地域連携地域移行を進めていこうという形になっている。

(委員)

知事部局への移行については色々問題も起こると思うが、修正しながら1つの形に持っていかなければならないかなど。全体的に教育委員会と分けて知事部局へスポーツをとという流れがあるので、そういう方向に和歌山県も行くだろうと思う。しばらく少し曖昧なところがややこしいと思うがよろしく願いたい。

(委員)

スポーツ課に障害者スポーツが事業として入ったということだが、教育委員会の中のスポーツ課に障害者スポーツが入って喜んでいて。しかし、今後別の組織になっていくことに少し残念な思いもある。うまく連携をしていただきたい。支援学校の体育関係においてスポーツを積極的に生徒が行えるような環境づくりについては特に先生方が苦労している。健常者と区別してはいけないが、非常に手間、体力、時間がかかると思う。働き方改革の中において、先生方が非常に苦労しているということも聞いているので、学校体育とスポーツ課との兼ね合いを十分配慮、検討していただきたい。希望ということにしておくので、よろしく願いたい。

(委員)

今後指導者は教師の兼業という形が中心になるような書き方だが、やはり地域の指導者

は困難で教師が指導者を兼業していくというのが今後の方針となるのか。

(事務局)

やはりこの地域連携地域移行のところで肝になってくるのは運営団体等、それから指導者の確保のところが大きな肝になってくると思う。地域の指導者の発掘もそうですが、教師等の兼職兼業による指導者の確保というのが今のところ考えられると踏んでいる。

(4) 鹿児島特別国民体育大会総合成績について

資料7により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

(5) 特別全国障害者スポーツ大会における和歌山県選手団の競技結果について

資料8により事務局が説明

〔質疑応答なし〕

6 閉会